

第 2 章

本 町 の 概 況

第2章 本町の概況

1 地勢・人口等

(1) 地勢

本町は、群馬県の東南に位置し、東は邑楽町と千代田町、北西は太田市、南は利根川を挟んで埼玉県との県境になっており、埼玉県熊谷市に隣接しています。

高速自動車道路は、太田市は北関東自動車道、館林市には東北自動車道が通っており、太田市と館林市にある各々のインターチェンジからアクセスできる立地となっています。

鉄道は館林市及び太田市で東武伊勢崎線に接続する東武小泉線が通っており、町内には東武小泉線の西小泉駅、小泉町駅、東小泉駅の3つの駅があります。

■本町の位置図



（２）沿革

本町は、昭和３２年に小泉町と大川村との合併によって誕生しました。

それに先立つ昭和１６年の太田・小泉飛行場の完成、翌年の中島飛行機小泉製作所の開所を機に、広大な飛行場敷地を有する「ものづくりの町」として発展する土壌が培われました。

戦後、米軍のキャンプドルウ^{（注１）}となった敷地が昭和３４年に返還され、昭和３５年に「首都圏市街地開発区域」の指定を受けたことにより、工場誘致や市街地整備が進みました。以来、電機機器・輸送機器等を中心に多数の優良企業が進出し、工業都市として堅調な発展を遂げています。

（注１）戦後、中島飛行機製作所の小泉製作所跡が米軍に接収され、置かれた基地のこと。

（３）地理的特性

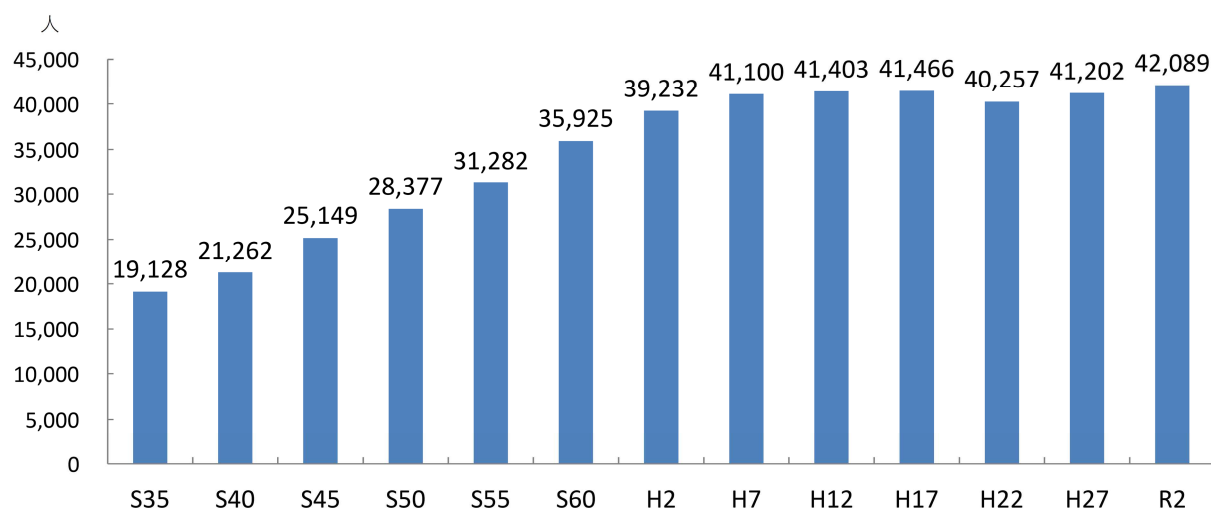
本町は、冬季に群馬県特有の季節風が吹きますが、降雪量は少なく、年間を通して晴天の日が多いなど、住みやすい土地となっています。

地形については、町域北部から南部にかけてわずかに傾斜する比較的平坦な土地となっています。

(4) 人口動向

本町の人口は、昭和40年に2万人を、昭和55年に3万人を、平成7年に4万人を超えている等、堅調に増加してきており、令和2年においても4万人以上を維持しています。

■総人口の推移



出典：国勢調査

(5) 産業

本町には、戦前から軍需都市として栄えてきた歴史があります。昭和35年に「首都圏都市開発区域」の指定を受けてからは、国内有数の大企業が進出し、電機機器や輸送機器を中心とした産業集積が進み、「ものづくりの町」として発展してきました。

企業誘致や工業団地の造成等を経て、医療用機器や食料品等の様々な分野で活躍する優良企業が進出し、現在も、北関東屈指の工業都市となっています。

また、生産活動を担う中心となる「生産年齢人口」の割合が、県内で最も高いことも本町の特色として挙げられます。

2 過去の災害

昭和22年9月のカスリーン台風では、大雨、河川の越水等による被害が発生しました。

平成23年3月の東日本大震災では、震度5強を記録し、被害が発生しました。

平成26年2月の大雪によって、被害が発生しました。

令和元年10月の令和元年東日本台風では、河川の越水等による、被害が発生しました。

■過去の主な災害

原因	発生年月日	主な被害
カスリーン台風	昭和22年9月14日～15日	半壊：1棟 床上浸水：154棟 床下浸水：348棟
伊勢湾台風	昭和34年9月26日～27日	全壊：11棟 半壊：3棟
台風4号	昭和41年6月28日	床上浸水：14棟 床下浸水：250棟
台風26号	昭和41年9月25日	全壊：3棟 半壊：93棟 床上浸水：2棟 床下浸水：20棟
東日本大震災	平成23年3月11日	半壊：2棟 一部損壊：1, 122棟
大雪	平成26年2月14日～15日	一部損壊：2棟
令和元年東日本台風	令和元年10月12日～13日	半壊：50棟 床上浸水：2棟 一部破損：14棟 床下浸水：50棟